

表彰状

東國東郡西武藏村大字富清
貳百四拾五番地徳二郎妻

溝部ヤス

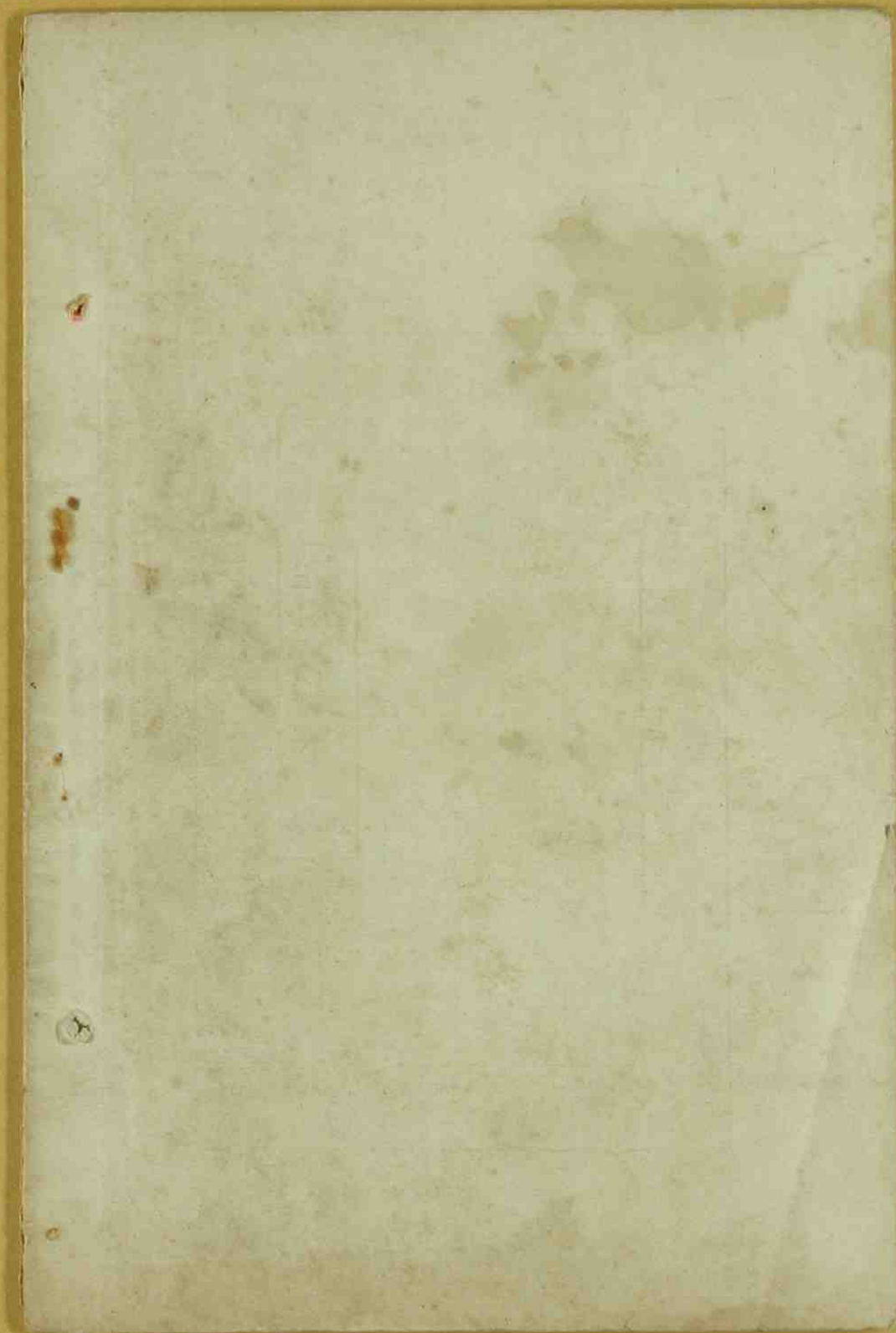
明治貳年六月六日生

女ハ幼ニシテ溝部龜吉ノ養女トナル資性温順二十三歳ニシテ夫ヲ迎ヘ一男二女ヲ學ク家固ヨリ貧寒加フルニ養母ヲ喪ヒ家道倍々衰退ス尋デ夫徳二郎ハ他家ニ奉仕ノ身トナリ後商業上ノ失敗ニ遭ヒ明治三十二年遂ニ浪遊踪跡ヲ緝晦スルコ至ル茲ニ於テカ倍々勇ヲ鼓シ夙夜營々家業ニ勵精シ十有余年一日ノ如ク或ハ苦シキ家庭ノ經營ニ或ハ老タル養父ノ奉養ニ或ハ幼キ兒女ノ鞠育ニ堅忍力行具ニ世ノ辛酸ヲ嘗メ而モ無情ナル夫ニ對シテハ孤節ヲ持スルコト愈々固ク一意専心家運ノ挽回ニ努メ兒女ヲシテ各々其所ヲ得セシムルニ至レリ洵ニ孝順貞淑以テ郷黨ノ範トスルニ足ル依テ別紙目錄ノ金品ヲ贈リ其善行ヲ旌表ス

大正四年七月二十五日印刷
大正四年七月三十一日發行

（非賣品）

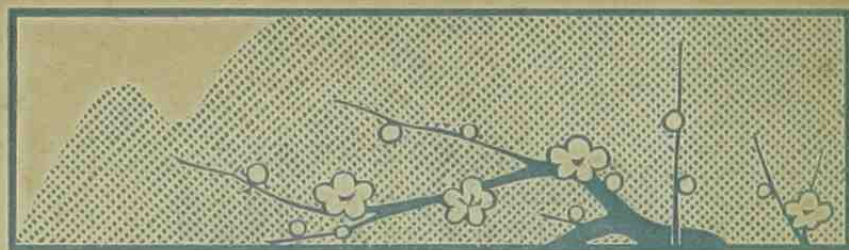
編纂兼 梅園頌徳講演會
發行者 大分縣東國東郡西武藏村
發行所 西武藏尋常高等小學校
大分縣東國東郡西武藏村
印刷者 伊藤 藤重
大分縣東國東郡東町
印刷所 大正社
大分縣東國東郡東町



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



大正五年七月三十一日發行



梅乃あり里



十年分は...
大正五年四月...
長崎高等商業学校
校長 梅園頌徳

臨時 號
梅園頌徳講演會

第二回梅園祭並講演會目次

一、梅園祭並講演會趣旨	一頁
二、梅園祭式順序	一頁
三、表彰式順序	二頁
四、來賓者芳名	三頁
五、齋主の祭文	四頁
六、委員長祭詞	四頁
七、知事祭詞	五頁
八、郡長祭詞	六頁
九、講演	六頁
(一) 梅園先生に就て	七頁
(二) 地方開發に就て	十一頁
(三) 自覺せる國民	十九頁
(四) 共同、努力、報恩	二十二頁
(五) 三浦梅園先生と長崎の學者	二十六頁
(六) 所感	二十九頁
一〇、表彰文	三十四頁
一一、本會委員	三十六頁

梅園祭頌德講演會趣旨

三浦梅園先生ハ不世出ノ鴻儒ニシテ歿後百二十餘年ノ今日其學德益々光輝ヲ放チ明治四十三年本郡教育會ハ頌德會及ヒ墓前祭ヲ舉行シ同四十五年二月二十六日贈位ノ恩典アリ教育會亦本村民ト共ニ頌德碑ヲ建設ス梅園全集ノ發刊梅園文庫ノ設立皆先生ノ懿德ヲ欽慕スルノ衷情ニ出テ遠近都鄙先生ヲ謳歌セサルモノナキニ至ル斯村ニ斯人アリ實ニ村民ノ榮譽トスル所ナリ是ニ於テ乎大正四年二月二十四日本村會ハ滿場一致ヲ以テ毎年四月三十日(先生易實日)全村民及學校ノ業ヲ休ミ知名ノ士ヲ聘シ學校ニ於テ頌德講演會ヲ開キ梅園祭ヲ舉行センコトヲ決議ス是レ村民及子弟ヲシテ永ク先生ノ德澤ニ浴スルノ恩惠ヲ忘レザルト與ニ風俗人情ノ淳厚ヲ務メ處世ノ要訣志操ノ向上ヲ謀ラント欲スルニアリ

大正四年三月

第二回梅園祭並講演會概況

梅園祭式順序

(大正五年四月三十日)

午前十時一同着席
次 委員長ノ先導ニヨリ齋主來賓着席
次 一同敬禮

- 次 委員長開式ノ辞
- 次 修祓
- 次 神職招魂詞
- 次 齋主祭文ヲ奏ス
- 次 委員長祭文
- 次 知事祭詞
- 次 郡長祭詞
- 次 玉串拜禮
- 次 一同拜禮
- 次 頌徳唱歌
- 次 神職還魂詞
- 次 委員長閉式ノ辞
- 次 一同敬禮
- 次 一同退場

表彰式順序

午前十一時三十分一同着席

- 一 一同敬禮
 - 二 開式ノ辞
 - 三 君ガ代唱歌合唱二回
 - 四 戊申詔書奉讀
 - 五 奉答唱歌合唱
 - 六 村長善行者及納稅優良部落ニ對シ表彰狀授與
 - 七 村長式辞
 - 八 來賓祝辞
 - 九 受賞者惣代答辞
 - 一〇 閉式ノ辞
 - 一一 一同敬禮
- 右畢ツテ講演會開會
- 來賓 力石本縣知事 後藤官房主事 河越本郡長 峯師範學校長 三浦自治週報社社長 光山二豐新聞社主筆 小野豐州女學校校長 荒木杵築中學校教諭 木元警察署長 内林本郡視學 加藤梅園文庫長 財前巡查部長 神職河野清實 朝來村長藤原萬吉 安岐校長小川米作 外南部各町村長並ニ各小學校長

參列員 西武藏朝來兩校兒童並ニ村内一般人士一千數百名ニ達ス

祭 文

茲の齋庭に神籬立てゝ招き奉り座せ奉る

贈從四位梅園三浦安貞大人の靈の御前に齋主神職河野清實恐み白さく

玉くしけ兩子の峯は高きかも小稻刈る豊の海は深きかも其海よりも猶深き其峰よりも猶高き大人の命の御功德を八十年前に傳へ來て賤やしづ賤の芋環繰りかへし昔忍ぶの衣の袖かへすかへすも慕はしく今年も去年のあとめて仰ぎ恐み稱言意奉らんと此の筵に集へる司々の人々より遠近の男女に至るまで襟かき合せいはひ拜み奉りくを平けく安らけく開召して今より行先之のまごぬの人々は更なり青雲の棚引極み谷嶺のさ渡る限り學の道をいや進めに進めしめ給ひ教の乘いや廣めに廣めしめ給ひ蟹が這ふ横さの道に踏み迷ふことなく鉾杉のすくなる掟辿りつゝ君の爲にも世の爲にも盡さしめ給ひ賜ましめ給ひて大人の命の御心を奇魂に幸魂に千代萬世の末遠く幸はしめ給へご恐み恐みも白す

祭 詞

維時大正五年四月三十日東國東郡西武藏村長小野元次清酌奏盛ヲ具へ虔シテ贈從四位三浦梅園先生ノ靈ヲ祭ル先生并山下ニ生レ學フニ師ナク購フニ書ナキモ霜晨雪夜精研盡瘁シテ息マス浴儒ノ沼々トシテ或ハ程朱ニ歸シ或ハ陽明ニ趨リ或ハ復古ノ流ニ赴キテ只管之ガ糟粕ヲ嘗ムル

ニ汲々タルニ關セズヨク獨立獨歩人倫ノ至諦ヲ闡明シ宇宙ノ玄理ヲ推覈シテ遂ニ古今獨創ノ大哲學ヲ成シヌ嗚呼偉ナル哉先生既ニシテ百有餘年德化彌々普ク遺著廣ク行ハレ而シテ豐後聖人ノ名益々高シ茲ニ第二回祭典ヲ行フニ方リ遐邇僻壤ノ村ヨク力石閣下ヲ始メ遠近名士ヲ迎フルノ光榮ヲ得タルハ即チ先生懿德ノ然ラシムル所トス在天ノ靈ヤ以テ慰スルニ足ラン尙クハ之ヲ饗ケヨ

維時大正五年四月三十日夫分縣知事正五位勳四等力石雄一郎謹ミテ香ヲ故三浦梅園先生ノ靈前ニ奠ス嗚呼先生ノ學德ハ廣大ヲ致シテ精微ヲ盡シ素ヨリ常人ノ得テ窺測スヘカラザル所ナリト雖思フニ先生ハ純正ノ天資非凡ノ才能ヲ以テ夙ニ先聖ノ道ヲ修メ氣節超卓識見高邁未ダ替テ騷擾ノ色ヲ見サス又曾テ己ノ長ヲ以テ人ニ加ヘズ嘉遜ヲ尙ヒ禮聘ヲ辭シ人ヲ道クニ忠愛仁慈ヲ以テシ互ニ善ヲ資メテ實踐ニ力メシム然レトモ苟モ非行アレハ諄々訓誨毫モ假借スルコトナキヲ以テ人皆其嚴容ヲ憚リ其恩惠ニ懷キ感極ルトキハ無賴ノ徒猶且面ヲ革メテ合掌拜謝スト云フニ至リテハ何シ夫レ感化ノ偉大ナルヤ而シテ其剛毅不撓ノ精力ハ遂ニ天地條理ノ說ヲ索研シテ玄贅ニ語ノ大著ヲ成シ又敢語ヲ著シテ性命義倫ノ道ヲ講シ燈ヲ以テ晷ニ繼キ循環改修畢生稿ヲ捐テス志ヲ書ニ寓シテ以テ知己ヲ後世ニ俟ツモノ浩々乎綽々乎トシテ彼ノ文藝技術ノ長ヲ一時ニ銜フモノト日チ同ウシテ語ルヘカラサルナリ嶺山ノ巍々タル先生ノ德ニ比スヘク豐海ノ洋洋タ

ル以テ先生ノ學ニ喩フヘシ當時既ニ關西夫子ノ目アル頁ニ以ナキニアラス先生歿後幾星霜龍光泉壤ニ徹シテ大正元年贈從四位ノ恩命ヲ錫ハリ地方ノ衆庶亦先生ヲ景慕シテ年々甘棠ニ培ヒ歲々奏假ヲ斷タルモノ實ニ偶然ナラサルヲ信ス今又茲ニ此ノ祭祀ニ會シ追懷更ニ切ナルアリ聊鄺衷ヲ據ヘテ蘋菜ニ代フ英靈尙クハ之ヲ照鑑セヨ

維時大正五年四月三十日梅園祭ニ列シ謹ミテ梅園三浦先生ノ靈ニ白ス恭シク惟ルニ先生易簣セテレテ茲ニ百二十有餘年學德彌々輝キ聖世ノ教化ニ貢獻スル甚タ大ナルモノアリ其ノ德澤ノ永ク人心ヲ感孚スル誠ニ欽仰ニ堪ヘサルナリ先生往年贈位ノ恩命ヲ拜セラル、ヤ潜德燦然以テ人心ヲ作興シ以テ世道ヲ振起ス其光被スルトコロ實ニ偉ナリト謂ヘシ抑報本反始ハ人倫ノ大本ナリ故ナリ以テ曩ニ本郡教育會發起シテ頌德會ヲ興シ又碑ヲ建テ或ハ梅園文庫ヲ設ケ矜式以テ先生ノ遺德ヲ千歳ニ傳ヘ高德ニ報ムコトヲ期スルアリ本村亦年々歳々今日ヲトシテ梅園祭ヲ行ヒ村祭日トシテ里人一般其ノ業ヲ休ミ以テ追敬ノ誠ヲ致ス洵ニ聖代ノ美舉ナラストセンヤ小子偶任ニ此地ニ在リ夙夜世道風教ノ振興ヲ念トス今此ノ盛典ニ會テ先生ノ鴻德偉業ヲ景仰シ感慨更ニ切ナルモノアリ蕪辭ヲ陳ヘ以テ悃誠ヲ布ク尙クハ微衷ヲ照鑑セラレンコトヲ

東國東郡教育會長 正七位 河越萬三郎

講・演

梅園先生に就て

大分縣師範學校長 峰 是三郎氏

私は昨年の梅園祭にも御案内を受けましたが差支のため自由致しました。本年再び御案内を受けましたので……御案内にあづからなくても是非参らねばならぬのです。今日まゐりまして皆さんが熱心にお祭をされるのを拜見して誠に愉快に禁へません。

就ては何か話をせよとの事でありますから、今日は梅園先生に因んだ話をしようと思ひます、しかし先生の功德や御學問、舊侯に仕へられた事、村のために盡された事などは、他國の私共がお話するまでもありません。そこで今日は、先生の御命日にあたられるが、先生が此世をお去りになる時の事を或る書物で見まして感じた事がありますから、それに就てお話致しませう。先生は永らくの御病氣の後御壽命に限りがありました。遂に本日なくなれましたが、其御臨終の際は汚れた着物を着替へさせ、手足を正しくせよと看護の人にいはれました。又御存命中御承知の通り澤山の書物を御書きになりましたがまだ訂正なさる所が二三ヶ所ありましたので、それを後嗣の方に御命じになりました。之れは誠に結構なお覺悟でありまして、長らくの病のため疲れて居られるのにも關はず今申した通り手足を正しうしおなくなりなつたのは之は先生御一人の行でなく、日本人の精神を立派にあらはされたものと思ひます。

日本人の教は終りを綺麗にするといふ事を大切にします。たとひ初がよくても終が悪ければ、何にもなりません。

敷島の日本心を人間は朝日に匂ふ山櫻花

といふ歌がありますが、之は武士道の精神をよくあらはしたものであるとして、昔から人の口によくうたはれて居ります。櫻の花を何故日本人の心にたぐへたかと云ふに、花には梅、菊、桃、牡丹など色々ありますが、櫻に劣らず奇麗であります殊に牡丹は花の王とも云はれて居りますのに、ただ櫻のみ日本人がとりわけ賞美しますのは、其の散り際が如何にも立派なからであります。梅の花はさび色になつて散りますし、菊にしましても、黄菊白菊と色々ありますが何れも、散る時は實にさな色に散ります。桃山吹皆ろんなにある中に、櫻ばかりは誠に散際が立派で散つた花を掃くのも惜しい様に御座います。このきれいな櫻が朝日を受けて咲いてゐるのは誠に申様のないまで立派なものであります。

そこで武士の家では、どこまでもあとを綺麗にするといふ事を教へて居ります。彼の芝居で名高い忠臣蔵の大星力彌實の名は大石主税は、十六才で吉良の邸に裏門から攻め込んで、勇しい働きをしました。その主税は伊豫松山久松侯に預けられまして、翌年の二月に愈々切腹を仰付られました。明日はいよいよ切腹といふ日に久松(松平)隠岐守から、此世の名残の御馳走がありました。主税は少しづつ押戴いただけで少しも食べませんので、御招待役は非常に心配し

ましてその譯を聞きますと、主税は「決して粗末なご好まぬごではありません。兼々父の誠に武士はいつ切腹せねばならぬかもわからぬ。其の時に見苦しい死様をしてはならぬ。こいはれて居たから、明日切腹の際に臍から汚いものが出ては死後までの恥になるので遠慮しました」といつたさうで御座います。誠に感心な話ではありませんか。

之と同様に、四五年前乃木大將が殉死せられた際にも、明治天皇が御病氣にかからせられてから日に重らせられ遂に崩御せられました。愈々御大葬儀を行はれるといふ二三日前からは大將は食事を減じられたと申す事があります。

斯の如く跡を潤さぬといふのが日本人の精神であつて、彼の世の諺にある「あごは野ごなれ山ごなれ」などは以の外の事でございます。宿屋商賣をして居る者には客人の性質がよくわかるさうであります。お客さんが發つた後を見ることがよくかたづけを行つた人といふ取り散らしたままで出る人があるさうであります。よく片附けて行つた人は何ごなしになつかしく、又來て呉れればよいがご心から思ふさうであります。「驚は立つてもあごを潤さぬ」とはこの事であります。

當村は植林をされて居られるさうで、今二十年の後は村費も皆さんの手許から金を出さなくて済む様になるさうで、私はここに参りまして此上もないよいお土産話を聞いたと喜んで居ります。この様に立派に植林が出来たのは、下草を刈り枝を打ち火に注意するなど、つまり後の

始末がよいからであります。病氣でも其通りで苦しいから苦い薬を飲みます。所が少しよくなる。と食つたり飲んだりして又悪くあつて命を落す様になるのは後の始末が悪いからであります。農業をしましても、鋤鉋を使つた時に洗つて置きます。翌日使ふのによいのですが、後の始末が悪い。翌日の仕事にも骨が折れる事になるのであります。一家の道具の置所にしましても鉄や物指を使つたら元の場所に置くといふ事にして置く。失つて見つける事も起らなくて済むのであります。皆さんが子供を學校に出すのも矢張後を立派にしたいからであります。つまり祖父よりも父、父よりも子、子よりも孫とだん／＼に後を立派にしようが爲に外はありません。其の証據にはよい物があれば、自分は食へんでも子供には食べさせ、自分は着なくても子供には着せるのであります。何事もこの通り櫻の花の様にあごを美しくせねばなりません。私の話は之で終わりますが、梅園先生のお祭をするのも後を美しくするためであつて、此の村に参つて聞きます。色々な犯罪人や悪い行をする者などが餘程少く村内至つて睦しくして居られるさうであります。之は皆さんが梅園先生の御徳を慕つて後を美しくして行かれるからであります。

まだ感じた事もあります。が餘り長くなりますから、先生の御徳の一つだけをお話した次第であります。(拍手)

(文責は速記人にあり)

地方開發に就て

自活週報社長 三浦 數平氏

私は此の壇上に於て有志諸君と相見るに及び、百二十年前に於ける偉人三浦梅園先生の在りし昔を偲び敬慕追懷の情に禁えぬものであります。今日廣く世界の狀態を觀ますれば、孰れの文明國も皆一つでも多くの優秀なる都市農村を造り出すことを競争して居ります。優秀なる都市、農村と云つても富の大計りではまだ駄目である、眞個に優秀な都市と稱し優秀な農村と唱へるこの出来るのは必ず其村其都に多くの偉人傑物を有つことに依りて、始めて其資格があるのであります。故に偉人傑物の多數は即ち其の村其都の後れたるや否やを測る尺度と云はねばなりません。此の意味から觀れば三浦梅園先生を産んだ此村は大きく云へば世界の誇りとも申され様と思ひます。英國の碩學ラスキン氏は嘗て偉人偉國論を唱へ、倫敦にラスキン大學を設立して偉人傑物の育成に力めたる事蹟は諸君の御承知の通りで在ります。此の偉人偉國論の主義は前にも申し上げました如く世界文明國に齊しく用ひられて今や何れも人物の育成に努力して居るのは注意すべき現象であります。此村が村會の議決を経て毎年今日先生の御命日を卜し梅園祭を執行するのは、單に先生の遺訓を追慕するに止まらず更に偉人を育成するの途であることを想ふて深く敬意を表す次第であります。

歐洲の戦亂は方に闌にして其の勝敗の數並に終局の時期に就ては何れも今日に於て逆賭すべからざるも、戦後に於ける世界の變局は更に一層大なること丈は確に想像がつきます。勿論戦争

十二
の舞台は主ら歐洲の天地に限られては居るが戦後の問題は正に世界の大問題である。殊に局外者でない我が帝國及帝國民は今日より戦後の變局に如何に處すべきかの用意を整へて置かねばなりません。今回の大戦に關しては我帝國及帝國民の學びたる處少なからざるが此の機會に於て特に諸君の注意を喚起したいのは獨逸皇帝が平生國家の公敵と唱へて痛く排斥に力めて居た社會民主黨の如きも外觀を控ふるに方りては遽かに舉國一致となり、豫て責任内閣制を以て朝野兩黨が鎬を削つてゐる、英國の如きも舉國一致内閣を組織し自由黨保守黨愛蘭黨及労働黨の各領袖を連ねて廟堂に起ち祖國の爲めに必勝を期し又哲人ベルグソン氏が噴離滅裂の國民を嘲つた佛國も齊しく起つて征獨の軍に従ふが如きは洵に活きた大なる教訓である。徒らに武陵桃源の夢に耽り忠君愛國を以て我が帝國及び帝國民の獨占物であるかの如く思料するは、思はざるの甚だしきものと申さねばなりません。故に諸君と共に此教訓に學び更らに一大覺悟を以て今後の世界變局に處すべき用意が何より大切なことと思ひます。想ふに其の用意の第一着手は地方開發が最善最良の策かと存じます。今日此村に於て梅園祭執行と共に個人外に團體の善行者表彰式を挙げられたるは取りも直さず小愛國心を養ひ以て大なる愛國心に至らんとする出發點で又以て地方開發の所以であることを確信するのであります。我が邦自治の淵源は可なり久しい歴史を有つてゐるが法律制度を以て自治を認めたのは明治二十一年市町村制の發布以來のことであると申されませう此制度は地方の事務を處理せしむることが最も適當であります。

十三
國家の政務は國の任命したる官吏で處理せしむるが市町村の事務は市町村公民の選舉したる吏員を以て國の法律に従ひて處理し、又其費用は市町村住民の分擔に依りて之を支辨するの組織であります。故に國家の政治を官治と稱し市町村の政治を自治と唱ふるに至つた次第である。勿論自治と云つても自由勝手な眞似が出来ると云ふ譯にあらず、必ず國法に従ふて行かなければなりません。蓋し自治も亦國務の一形式なり、市町村は自己固有の事務の外に國家の委任事務がありまます相寄り相助けて自治の發達を計り國家の基礎を鞏固に導くものであります國家から委任された事務の分量の多少が勢ひ自治の消長に關係するものであるがさればどて一概にはごかく申すことの出来ぬ事情がある即ち其關係は國の歴史と民俗に依て相違があります。例へば英國の如きは自治制度の最も發達したる國柄で委任事務は最も少なく反之獨逸では其の分量が可なり多いのであります。我國の自治制度は獨逸の制度に倣ふたものであるから固有事務の外に國家の委任事務を有することが多いから上級監督官廳の監督も從つて嚴重であります兩者の利害得失に就ては誤必ずしも容易をらず全く其の國情に依るべきものであつて頗かに英國のそれを採るべきものであるまいかと信じてゐます試みに各國に行はれて居る自治の制度を主義の上から區別すれば先大様二つに分るゝことが出来る即國家的自治と民主的自治である。後者は英米佛等の諸國に行はれ概して共和國の制度に存し前者は日獨等の如き諸國に行はれてゐる。自治の制度にも此の二大系統はあるが其の何れを問はず凡て文明國にありては國家興隆の根本

問題として寧ろ國務以上の急務を以て取扱はれて居ります。即ち自治は憲政の前提で又國務單位であるに拘らず、我國に在りては憲法發布に先つこと僅かに一年市町村制の發布あり謂はゞ益と正月とが一緒に來たので両ながら其の用意が出来ず空しく二十餘年を経過したのである。國民に政治的訓練の無いのも全く之がためだ、多くの立憲國民は必ず地方の政務に參與し政治的訓練を経たる後始めて憲政に入るの順序と爲つて居る是當然の順序である。然るに前申しあげた通り殆ど同時に二個の制度が布かれたから國民は一齊に國會に狂奔して其基礎教育たるべき自治の制度を閑却したる傾きがあるのであります。

今に於て我が國民が其の何れの一つをも會得了解せざる所以は決して偶然の沙汰にあらずと思ふ故に近年、識者の階級に於ては頻りに思ひを地方の開発に注ぎ餘りに憲政の確實を策して居る。斯くの如きは如何に遅れたりと雖も爲さざるに如かずて舉國一致此の風を馴致せば憲政有終の美は期せずして到り國家の基礎は自ら確立するものであります。

國民の多數は未だ醒めず徒らに選舉競争に狂奔し自分の足場である市町村の自治をも顧みず黨争之れ事とし、適材を選ぶの途に思を致さざるは通弊と云はねばならぬ抑々一地方の利害は彼此共通に屬し甲の利とする處また乙の利とする處である、即ち市町村内に於ては彼此利害相反することあるべからず。利害の一致する處に黨を樹つるは有害無益の沙汰と云はねばならぬ。市町村長は市町村の總理大臣で市町村會議員は差詰り國會議員の格である。故に其の職に在る

者は責任の重大なるを自覺し、又其任務を盡すを以て無上の名譽と思はねばならぬ。然るに己自ら之を卑しむ爲に他また多く之を侮る斯くの如きは、蓋し自治の發達せざる根本の弊害と云はねばならぬ。此の弊風は各地方に於て一日も早く矯正し市町村長や議員には一流の人物を擧ぐるの習慣を作るべきであると思ふ。西諺に市町村長僧侶小學校教員を以て三昧一体と唱へ協同一致地方の開発に當るべきものと仕て居る我が邦の現状は果してどうである一流二流の人に多くは名譽職の分擔を避け三流四流の人達に任かせて居る、蓋し自己の郷土を思はざるの甚だしきものと云はねばならぬ。反之官吏とし云へば今猶ほ如何なる卑官にも奉職せんとする傾きあるは、我自治制の慨嘆に堪へぬ次第であります。要は市町村機關の構成に用意し又其機關に對して相當の尊敬を拂ふべきである、左すれば自治の當局も自ら其の任務を盡了するを以て無上の名譽を自覺するに至るものである。以上説く所は即ち地方開發の基礎的觀念であるが以下進んで其の方法に關し少しく卑見を陳べて見よう。

抑々地方開發の方法は固より多種多様であるが結局(一)精神的開發(二)物質的開發の二方法に外ならぬものと信じます。

(一)精神的開發 即ち市町村の住民を教育訓練して善良なる公民を造るのは何より大切な事で自治の眼目であります。世間で喧ましい公民教育と云ふのが之れである此の教育は勿論學校教育計りを指すものではありません。青年會少年義勇團又は各種の講演會若くは其他會合例へ

は戸主會母の會父兄會等を設けて地方有識者の指導訓練に付て行はるゝことが出来るのであります。

(二)物質的開發 經濟思想を養成して市町村住民の財力増進の途を講ずるは精神的方面の開發と相俟つて自治の精髓に適ふ所以の要道であります。恒産ある者は恒心ありて恒産が無ければどこに人間に缺陷が生ずる多くの犯罪の裏に婦人がある、と同様財物に關する犯罪人の多くは財的缺陷がある。故に人間は誰れでも恒産を造らねばならぬ恒の心の無い人間の多い處に自治の發達し様善はありません蓋し自治は各自が其の總てを分擔するの義でありますから財力蓄積の事は最も必要な事項の一つである事と考へます。要するに自治の眼目は一面に於て精神的開發と同時に他面に於て物質的開發が其の總べてを占めねばならぬ。諸君は總じて地方開發の重大なる責務を荷はるゝ方々であるから、特に此二点に關し深甚なる注意を望むのである。然らば如何にして市町村民の物質的開發を爲すべきかを説かねばならぬ。既に其大綱はお話しましたが更に少し具体的に其方法を研究し諸君が御參考の一助に供して見たいと思ひます。精神的開發の方法としては(イ)公德の養成即公の秩序を重じ善良の風俗を尊び世のため國のため盡す云ふ觀念を作ることであり、換言すれば對世的關係に就ては私の利害關係を後にすると云ふ考へが必要である蓋し自治の精髓は共同生存に淵源するものであるから相互に推譲し又互に相憐みて始めて其完きを得るものであります。更に又共同の福利を増進する爲めに公

民たる積極的公掛が必要である。先づ總ての人々をして規律の大切なることを學ばしむるが如きは公德養成の最も卑近な一例であります。何となれば各種の集會に際し時刻を守らざる様な人あれ多數の人々に迷惑する多數の人々に迷惑を掛けぬ注意するのが公德養成の一例であります。(ロ)名譽心の發揮我邦從來の慣用に依れば名譽と云ふ言葉は甚しく誤用せられて居る。即ち金持に爲つた高位高官に爲つた議員に爲つた學者に爲つた、と云ふ一事を以て直に無上の名譽呼はりをするのである。故に木猴にして冠するも猶ほ名譽であると思ひ得て居る者が多い。夫が何で名譽である筈んな誤つた思想が多くの人々に在るので、偶々成金の徒其他之に類する輩が柄にも無い非望を懷きて選舉競争などを試みる。此の如きは實に社會風教の爲め寒心に堪ぬ次第であります。眞個の名譽とは人々が世の爲め人の爲め其職務本分を盡すの謂である近い例が市町村長は自治体の首腦者として最大切な機關でありますが其當選の一事のみを以ては名譽と云ふことは出来ないのであります。其首腦者たる職務を盡し地方改良發達に裨益する所があつて始めて名譽と稱することが出来るのである。要するに名譽とは各自其本分を盡して遺憾なき場合に於て始めて戴くことを得べき宝冠であります。西洋諸國では此名譽と云ふ言葉は我日本の様に濫用せられては居らぬやうであります故に私は西洋諸國に於ける名譽の意義を以て一般に諒解せられんことを切望しなければなりません。

物質的開發の方法に就ては(イ)生産の獎勵經濟の根本的觀念は生産の獎勵であります生産と云

ふことも經濟學上の定義は随分なものであるが要するに最少の勞力で最大の効果を收むる途でありますから主として自然と勤勉に由るものである。例へば農家が播種耕耘に力を竭すも自然の順を失へば意外の損害を被るが故に自然が生産の要件たるは申す迄もないが、概して云へば勤勉努力は生産の第一要件あるを以て勤勉の習慣を養成することが第一義であると思ひます。(ロ)消費の調節如何に多額の生産があつても何等の節制なく消費すれば寧ろ生産なきに劣るこゝとがある、消費の濫用は總て飽食暖衣と變じ奢侈に流れ延いては風教に悪影響を及ぼすべきを以て消費の調節もまた却々に用心せねばなりませぬ。(ハ)貯蓄心の涵養消費を調節すれば必ず一面には相當な貯蓄が出来る貯蓄は恒産を作るの第一歩にして即ち恒心の出発点であります。私は平生の職務に關して知る所をあげれば刑事被告人中財産に關する罪の被告人の多數は恒産の無い者である恒産無ければ恒心無して終ひに國法に觸るゝのであります。貯蓄心の涵養は或は意味に於ては道德的觀念の基礎とも申すことが出来るのである。以上私の述べたる所は多くは抽象的談話に過ぎ適切な事例を示すの迫が無かつたので諸君の爲めに何等の裨益する所無きにも拘はらず、長時間に亘て諸君の御聴聽を餘儀なくしたるの罪を謝すると共に今後の世界變局に處する覺悟決心を促して止まざるものであります。尚終りに一言主催者に對して此好機會を與へられたる厚意を感謝致します。(完)

自覺セル國民

豐州女學校長 小野 由之 亟氏

今日ハ午前ヨリダシク、有益ナオ話ガアリマシタノデ此處ニオ集リニナツタ効能ハ充分デ最早私ガ話ス必要ハ有マセンガ折角此處ニ立チマシタノデ何カ御話シタイ者デス。凡テ話ガ役ニ立ツカ立タナイカハ開様ニヨルノデ私ノ様ナツマラヌ話デモ聞キ様ガヨケレバ役ニ立ツノデス。ソコデ如何聞ケバヨイカト云ヒマスト耳デ聞イタノチ下腹ニ持ツテキテ工夫シテ出セバドンナ話デモ役ニ立タナイモノハナイノデス。(中略)話ナキク時ニハ實チ入レテ聞カネバナランガ可笑シイ事ガアレバ笑フガヨイ笑フ門ニ福來ルト云フテアルガ笑フコトハ人ノ健康上ヨイコトデアルソコデ私ノ話ニ面白イ所ガアツタラ大イニ笑ツテ下サイ而シ長ク笑ハナイ様ニシテ下サイ明治天皇ガ明治四十一年戌申詔書チオ下シニナツタノハ日本ハ戦争ニ捷ツテ一等國ノ仲間入リハシタガ實力ガナイカラ國運ノ發展チ圖レトノ御聖旨デアル。一昨年歐州戦争ガ起ツテ我國ガ一等國ニ列シタ價値ノナイ事ガ現ハレテ來タ。第一命ノ親ノ藥例ヘハ解熱劑壹圓參拾錢位ノモノガ只今デハ參拾五圓モスル様ニナツタ又鉄材ガ非常ニ高クナツテ大分築港ニ使ツタ浚渫船ハ五箇年間モ使用シタモノチ賣ツテ四萬圓モ利益ガアツタ成程戦争ハ強イガ之ハ兵隊丈デ出來ルモノデハナイ。只今日本ニハ貳拾五億ノ借金ガアル此金高チ一圓札ニ換ヘテ接ギ合セルト一万三千里ノ地球チ八回巻ク程ニナル又一分間百枚宛數ヘルト夜晝ナシニ百二十五年カカルソコデ我々ハ今日世界中デ日本ハ如何ナル位置ニアル

カト言フコトヲ知ル必要ガアル即自覺デアル。日本ハ之マデ小サイ島國デ島國根性が失セナカ
ツタ然ルニ臺灣樺太朝鮮ガ新領土トナツテ日本ハ最早島國デハナイ面積ニ於テモ世界八大強國
ノ本國ト比ベテ第三位人口ノ數カラ言フテモ第三位ニアルノデ島國デモ小國デモナク大ナル
大帝國デアル。我國ノ發展ノ有様ハ明治初年財産五拾億圓歳出四千九百萬圓軍艦六千噸陸軍六
師團デアツタガ現今デハ財産參百五拾億圓歳出五億六千萬圓軍艦五十萬噸陸軍二十一師團トナ
ツテ居ル之デ見ケモ我國ハ大ナル發展ノ仕方デアツテ決シテ小國デハナイカラ大國民タル自覺
ヲスルコトガ大イニ必要デアル。

- 一 集會ノ場合下駄ヤ草履ガ紛失スル
- 二 公共心ガナイ
- 三 其土地ニ出世シタ人ガアレバ之チゲナス
- 四 商業道德ガナイ例ヘバ見本ト商品トガ違フ
- 五 時間ノ觀念ガナイ

今ヤ農村ノ疲弊ハ甚ダシイモノデ全國ノ農家五百六十萬戸ノ内四割ハ借金ヲ持ツテ居ル其額ガ
九億四千萬圓デ一户平均百八拾圓ニナル其内六拾圓ハ農具購入六拾圓ハ生計困難ノ爲デアル
明治十九年ニハ拾圓以上ノ地租納稅者ガ百五十萬同二十五年ニハ百十七萬ニ減リ同二十九年ニ

ハ八拾五萬ニ減リ全四十二年ニハ七拾五萬ニ減リタ増シタモノハ小作人ノ數デアル。日露戰爭
後全國ヲ通シテ一年ニ一万戸宛ノ農業者ガ倒レテ三百萬戸ニツキ一户ノ割ニ當ツテ居ルガ其原
因ハ農業者自分ガ自分ノ職業ニ對スル自覺ガナイカラデアル第一百姓程工夫セナイモノハナイ
農事講習等ヲ受ケテ聞イタママチ行ツテ見テ失敗シツマランナドト云フケレドモ失敗スルノハ
工夫ヲ加ヘヌカラデアル次ニ百姓程記録ヲセヌモノハナイ例ヘバ五十年六十年ノ老人ガ洪水ノ
度ニ四十年目ダノ五十年目ダノ云フガ之ガ証據テアル四十年目ヤ五十年目ガ續ク譯ガナイ又百
姓ハ一般ニ吞氣デ職業ニ忠實デナイ夫レデ眼前ノ慾ニ迷ツテ職業ヲ替ヘテハ失敗スル者ガアル
之モ農村疲弊ノ原因デアル。

百姓ガ作物ニ對シ愛ヲ持ツコトガ改良進步ノ第一デアル記録ヲ作ツテ其結果ニヨツテ工夫スル
ノモ樂ミチ以テ始メテ行ハルル事デアル漁夫デサヘモ亦樂ミガアル。

磯デ千鳥ノ鳴ク聲聞ケバ船乗稼業ガ止メラレヤウカ
百姓モ
霜ハ白粉旭ハ紅ヨ見ヤレ天地ノ薄化粧
ト云フコトハ職業ニモ夫レノ樂ハアルト云フコトデアル職業ニ上下ハナイ人ニ上下ガアルノ
デ職業ニ忠實ナノガ一番貴イノデアル先ノ先マデ考ヘテヤルノデ自覺セル國民デアル。
ソレカラ

心ニ付イテ調ベテ見ルト

心ハコロコロスルカラコロコロノヲ一ツ除イテコロト云フ又玉ノ様ニアルカラ魂ト云フノ
デアル人間ノ心ニハ佛ノ心ト歌ノ心トガアツテ此ノ内ノ佛様ノ心ノ勝ツタ人ガ善人デ歌ノ心ノ
勝ツタ人ガ悪人デアルガ又此心ノ置所ガ大切デアル頭ニ置ケバノボセ胸ニ置ケバ驚キ易イソコ
デ之ヲ下腹ニ置ケバナラヌ武士道ノ修養ハコノ心ヲ下腹ニ置クコトデアル武士道即日本魂之
ハ日本人傳統ノモノデアル外國ニモ夫夫國民ノ魂ハアルガ日本魂ニハ及バナイ此日本魂ハ昔ハ
母親ガ兒供ニ乳ヲ與ヘル片手ニモ歌ニ歌ツテ居ツタモノデアル此時分カラ其魂ヲ打込ンダモノ
デアル夫レガ近頃ハ妙ナ風ニナツテ來タ様デアル家庭ノ教育ハ此魂ヲ打込ムト同時ニ互讓報恩
ノ徳ヲ與ヘネバナラヌ夫レニ付イテハ次ノ歌ガアル

世ノ中ハコソノニ文字ノ付ケ所オサマルモコソ乱ルルモコソ

コソノノコソハコチヲノコソナラズコソハアチヲノコソニコソアレ

コノ心懸デ居ツタナラバ一家一村和合シテ行クコトガ出來ルト思ヒマス。

(文責記者ニアリ)

共同、努力、報恩

二豊新聞社主筆 光山 百川氏

私は本郡の生れの者ですがまだ梅園先生のお墓に詣つた事もなく、のみならず本村に参つたの

も初めてで誠に恥かしい次第です。然るに本日は第二回の梅園祭に列する事を得まして實に
光榮に存じます。さて私の演題は断片的でございますが約二十分間程お話をいたします考へです
先づ共同についてお話をいたしますが唯今前辨士三浦氏が黨争云々のお話をいたしましたが見
て世の争ひ事は權利の主張が本でございます。矢鱈に權利主張をせずによく理性に訴へて物事
は判断せねばなりません。ことに一つの例話を申しませう或る時のこと目と鼻とが眼鏡の所有
權について争ひを起しました。目は自分に屬するものだといひ鼻はおれの所有物だといふ。争の
結果裁判所たる耳に訴へました。口は判事の役前で茲に判決を下しました、曰く眼鏡の所有權
は鼻にありと。目は遂に敗訴になる鼻はうれし見よかしに低い鼻をうごめかして威張ります。
目は残念でたまたまいからしつかり閉ぢてしまひました。さあ世界は黒闇。鼻は物にぶつ
かつて血だらけといふ有様。裁判には勝つたと思つて居たがさてノ閉口仕つた。そこで又々
耳に訴へて和睦を申込んだと云ふ事です。

昔支那の元宗皇帝の時に家來に大へんひげの長い人があつた。或る時皇帝は其の人に向つて其
方は寢る時其の鬚を蒲團の中に入れて寢るか又出して寢るかとお尋ねになつた。家來の人は考
へて見たがどうして眠るか覺えないから私は知りませんと申しました。皇帝は大へん怒つて自
分の物を知らぬと云ふ事があるかとお叱かりになりました。そこで其晩歸つて眠る時蒲團の内
に入れて見たが邪魔になつてしかたがない。こんどは出して見たが寒くて眠れない。入れたら